へ13
3689
8

門へ13
3689
8

金華七變化 全部八篇上巻

狂文坂 梅蝶樓 馬亭 作
一勇斎国芳 画

江湖小合巻を以て草稗史と称呼来る。稗は黄表紙赤本時代よりの通称也。想ふに合巻は都て果敢譚ものゝみ。趣向は秋の千草より花の如く錦彩るとも、人の徳大人君子の視るべき物ならねば成べく。丁寧一種の仲あり號て金花七變化と言。金の花と文字も書ど言葉の花の色香も薄く。実ざるのみぞ梓元の金の花を咲せんと。丹誠尽し培ふ故も彼紫陽花の七変化と。殿々近寄る怪談も。既に八本の数とハあるまじ。是や浪間の萍も。何を種もあらん紙の上の随意々々生繁るものぞ。草稗史と言も亦故あるとぞや

文久 丸烹葵稿成
二鴻釣發市

鶴亭秀賀戯述

古川 ふるかわ
検校霊 けんぎょうのれい

上

小森 こもり

半 なかば

之 の

巫 ぎょう

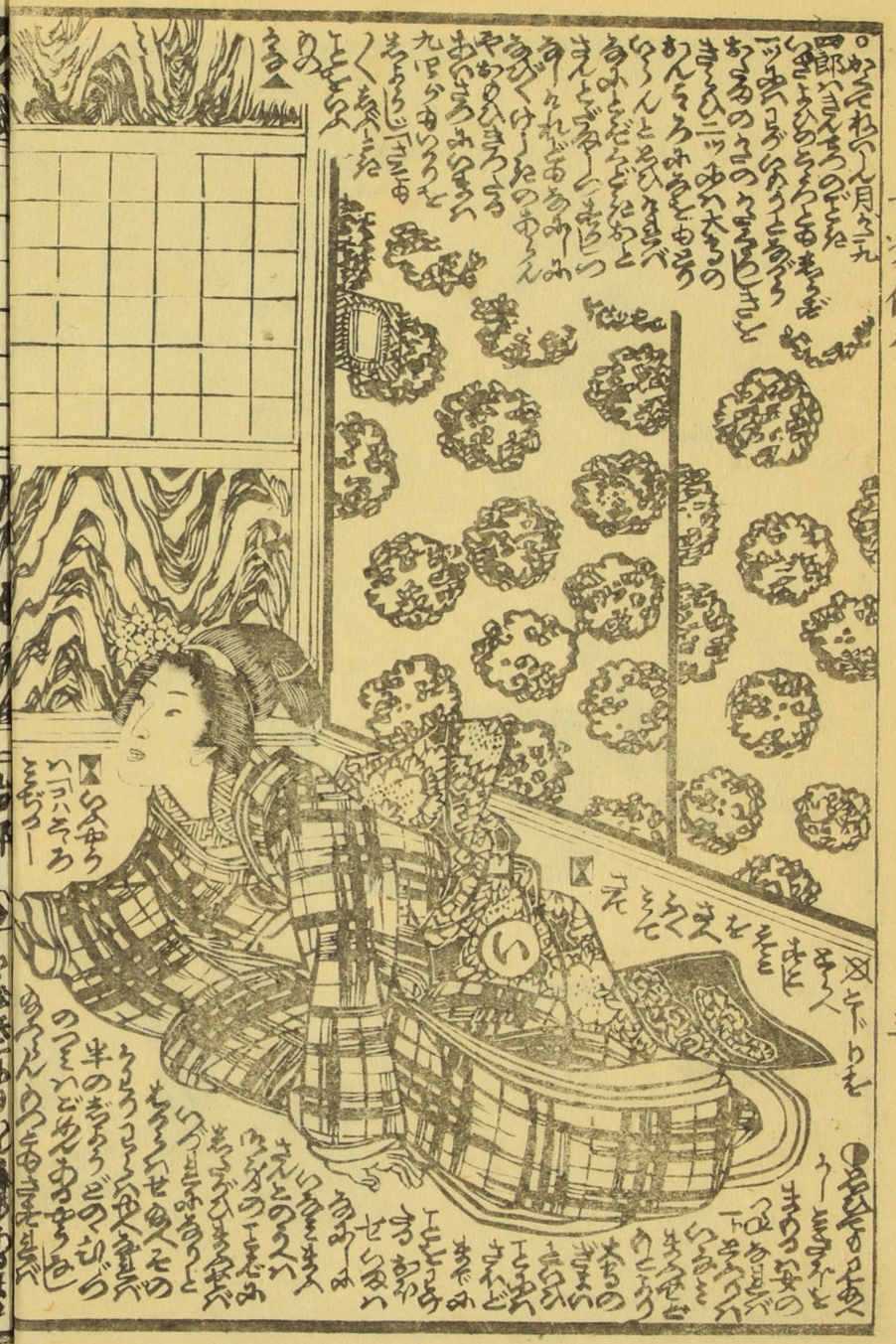
大家 たいか

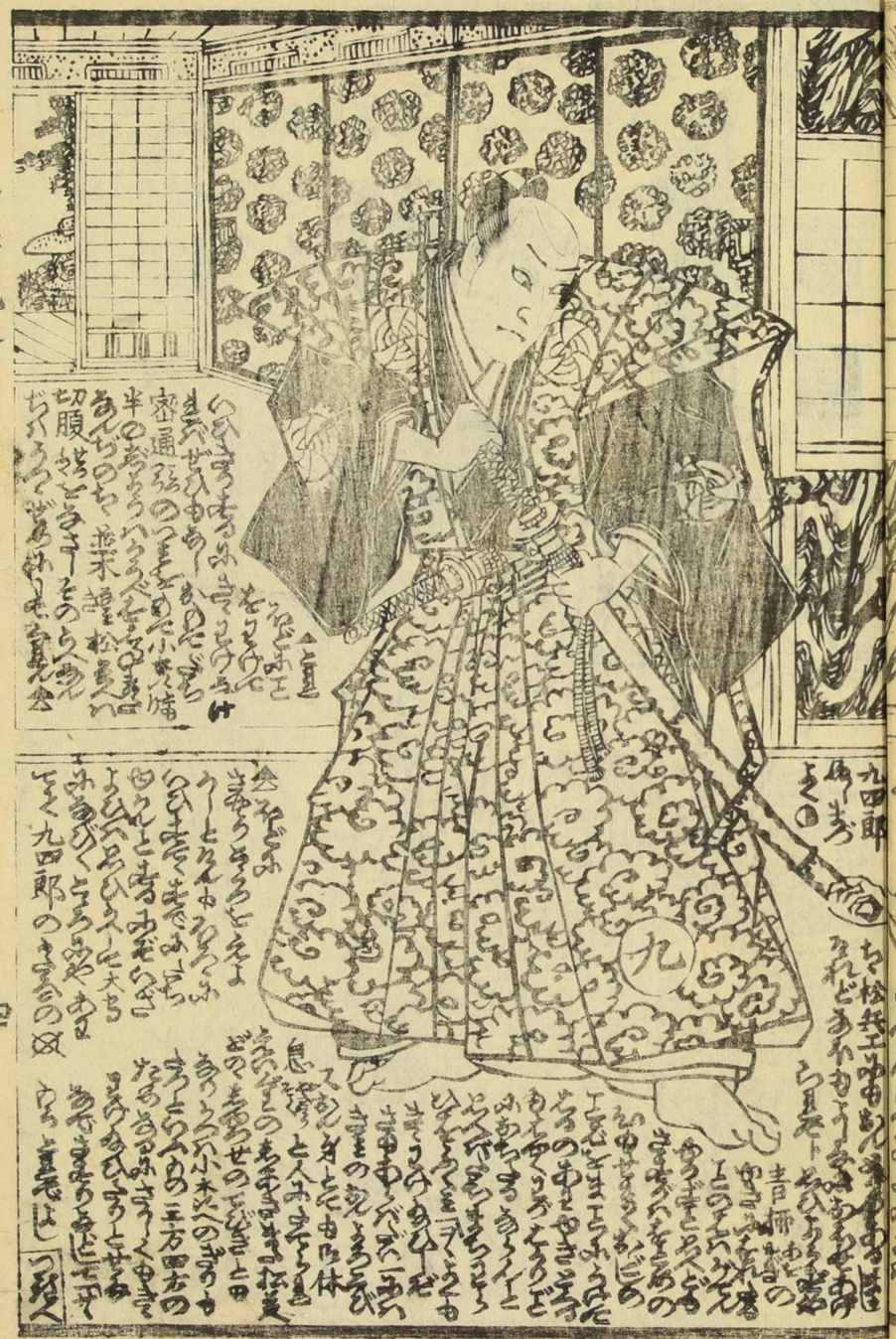
内ヶ義 うちがぎ

弘 ひろめ

○猫間の後室烏羽玉
月形九四郎より緑の市の
死を聞て大内を殺
飼猫を呪
して
一墳
死を
遂ろ

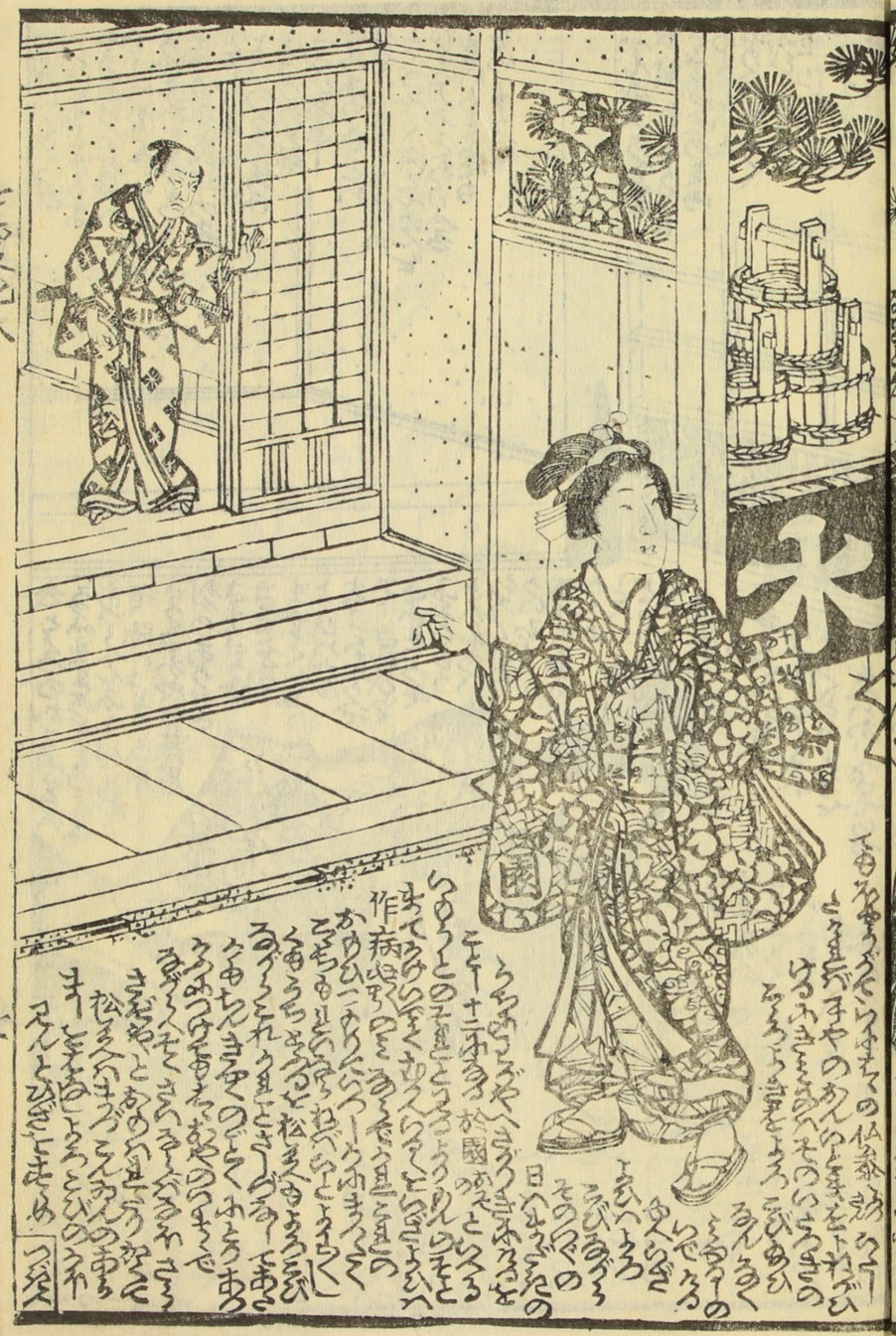
○大内家の
一門執政の上席
渋江
典膳
鬼
宗
○月形九四郎
賢吉君寵の衰へ
恨を渋江の叛逆の組
七段目





松

半



松

貞良院松露信女霊

吉利院万利信尼

木

緑の市の夏

國貞画
秀賀作

花笠文京 編

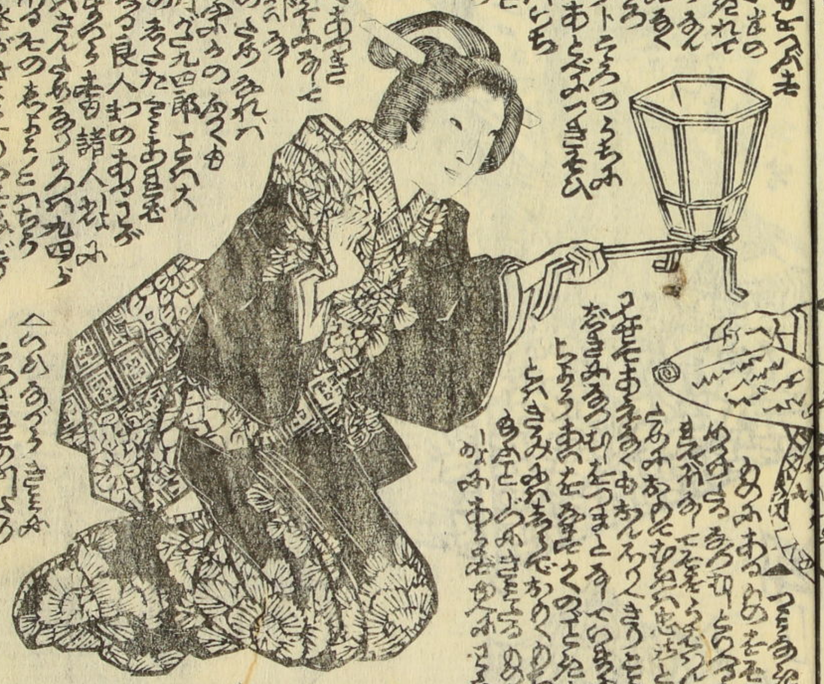
金松亭梓

文政春發

下の巻

古

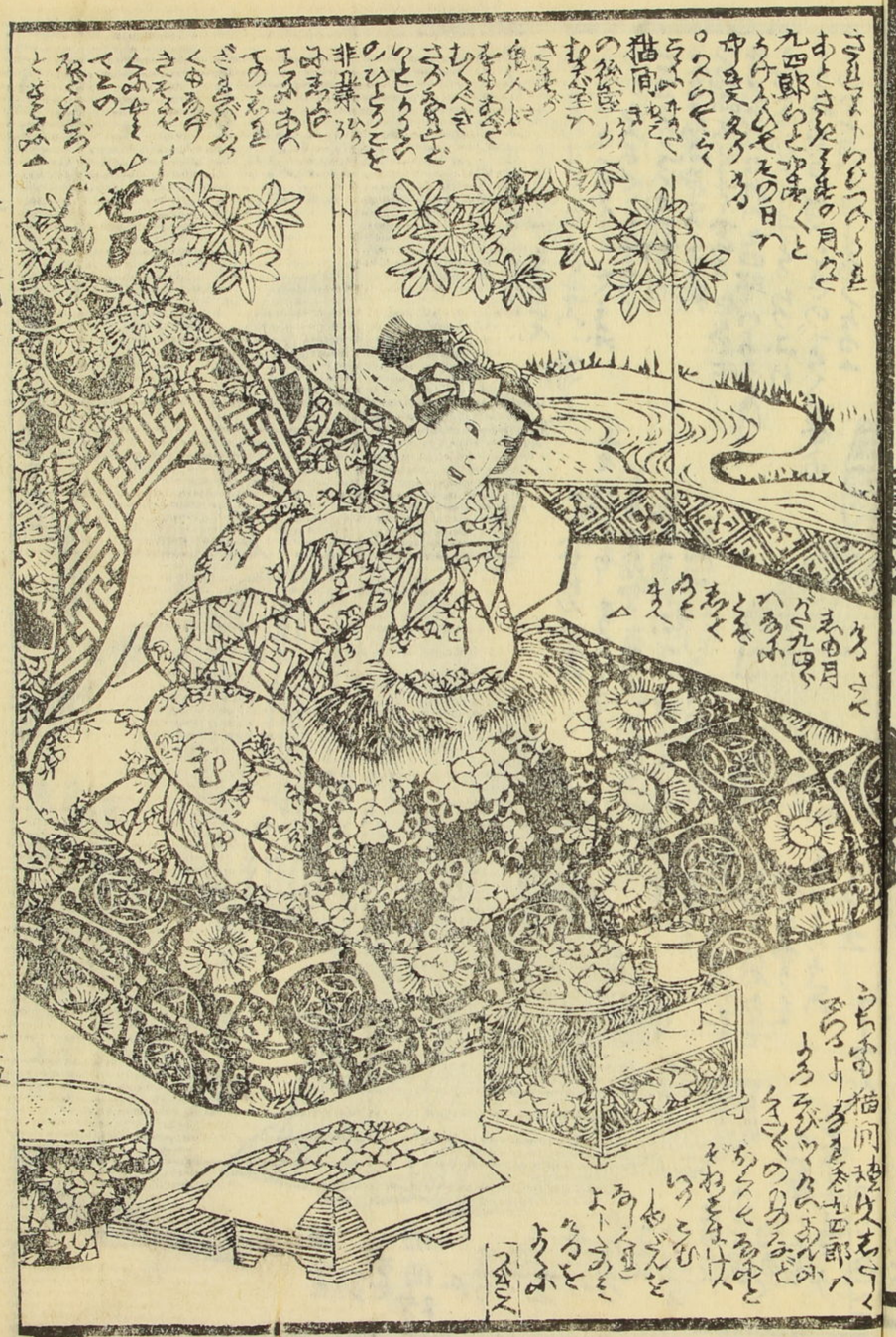
緑



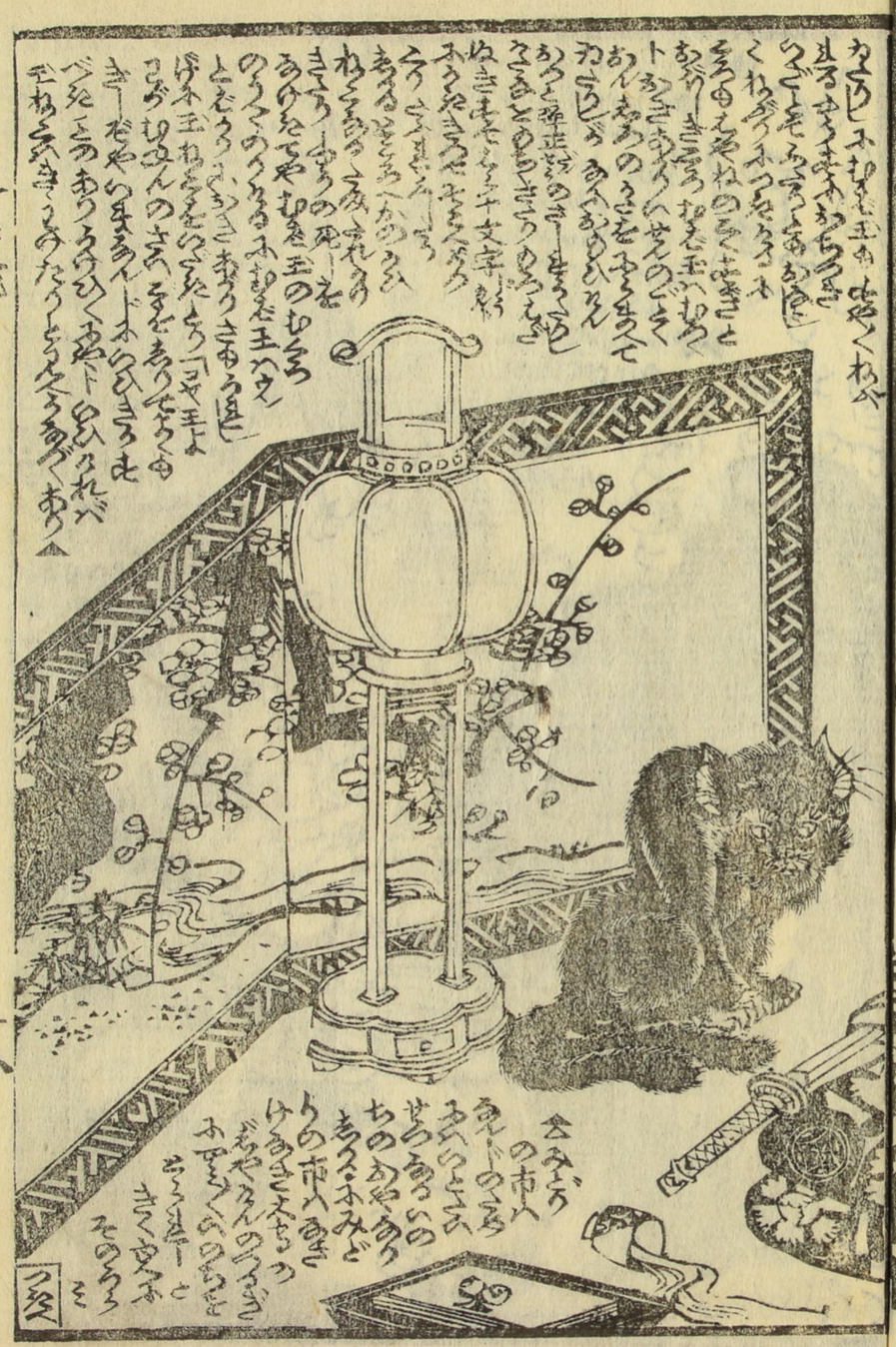
法眼華
典

九

春



つゞき さよれん まるで大ちがひの こゝろえ ちがひ ちがひ ちがひ



鶴亭秀賀作　棋蝶樓國貞画

柳縞揃双紙　為永歌長作　尾上壽齊國貞画

都鳥子松若　柳水亭種清作　同

初紅葉小倉色紙　同　同

蝶衛亀山染　同　同

縁綱詞花文台　半紙摺　松川芳宗画

當利生一網打尽　為永歌長作　歌川國盛画

濡衣女鴉神　為永歌長作　尾上壽齊國貞画

地本問屋　辻岡屋文助　江戸西國橋小舟町二丁目　金松堂